

【十一月の言葉（平成二十九年）】

「死んだらお終しまい」という人生はさびしい。
「死ぬんじゃないよ、お浄土に帰るんだよ」
という人生を生きるのです。

現代人は死んだらお終いと思っている人が多いようです。死んだら焼かれて無になるだけで死んだら終わりだと思っっています。禅宗の公案に「和尚、地獄とは何ぞや」「地獄か、帰るところが無い人生じゃ」とあるそうです。帰るところがないということは大変です。日常生活でも旅でも帰るところがなければ、さ迷うしかありません。人生の旅も必ず終点が来ますが、帰るところがなければ大きな不安です。永遠にさ迷うしかありません。まさに無間地獄に落ちるようなものです。阿弥陀如来は「いのち尽きたら安心して私の国（浄土）へ帰っておいで」といつも呼びかけておられます。安心して帰れるところがあると気づくと、いのち尽きるまで精一杯生き抜いていこうという力が湧いてきます。

死んだらお終いという人生は寂しいです。虚しいです。そうではなく、お浄土への道を歩む人生を生きるのです。